

デジタルファブリケーションが拓くもの作りの未来

田中 浩也

慶應義塾大学 環境情報学部

FabLabとは、いろいろなデジタル工作機械を集めて人々が皆で実験するようにもものづくりの可能性を探索できるようにした市民のための工房です。3次元プリンタ等のデジタル工作機械の普及により、大企業が設計して工場生産し店舗で売ってユーザーが使うという作り手から使い手への一方通行のものの流れが変わろうとしています。インターネットによって市民が世界に向かって情報発信ができるようになったのと同じように、市民が自分のアイデアを自分の手で形にし自分で使い、場合によっては量産する、といったもの作りのボトムアップの流れが起っています。FabLabはそのようなパーソナルファブリケーションを促す場です。私が、FabLabに出会い、世界のFabLabを探訪し、日本でFabLabをつくるに至った一連の活動を紹介することを通じて、もの作りの新しい潮流を共有し、作って使うこれからの生活について考えてみたいと思います。

